

Q. 息子と父親の関わり方についてお聞きしたいです。

夫には見守るだけでいいと何度も言っているにも関わらず息子の部屋に入って無理やり起こしたり、勝手にテレビの視聴制限を設けて心を閉ざす事ばかりしています。やめるよう言っても聞き耳をもってくれません。

夫に響く言葉を伝えてほしいです。

A. 不登校の娘の父親であった私も、かつては今回ご相談を受けた旦那様と同じ対応ばかりしていました。自分の生き方にプライドをもち、懸命に社会で戦っているという存在の父親にとって、学校に行けないことが弱いこととして写り、本人の努力が十分でないと考えてしまいがちです。私も妻との考え方の違いから夫婦喧嘩が増え、家庭がギクシャクした時期もありました。

ですからお母様のお気持ちは痛いほど分かります。その苦しい中で一生懸命になって息子さんのことを思い、なんとか旦那様に理解してもらおうと努力していらっしゃるお母様は本当に立派だと思います。そのお気持ちは必ず旦那様にも理解していただけるはずですので、どうかあきらめる気持ちだけはお持ちにならないようお願いしたいと思います。お父さんの考え方を変えることは、お母さんの責任ではありません。

今の状況というのは、夫婦ともに一生懸命になって息子さんのことを案じ、何とかしてあげたいともがいていらっしゃるのだけど、それぞれの教育観や価値観の違いからお二人の目指しているベクトルの方向がずれてしまっているという感じだと思います。お父さんは「なんとかしてやりたい」という気持ちはお持ちです。ただその方法を思考する際、お母さんや息子さん本人との価値観の違いから、違う言動となってしまうと言うわけです。

そのようなお父さんの考え方を無理に変えようとするのは、かえって対立構造を強固なものにしてしまうリスクがあるので、まずは「父親というのはそんなものだ」と開き直りましょう。不登校の子をもつ夫婦の「あるある」だと考えてください。

その上で次のようなことができれば、ぜひ試してみたらと思います。ただし一回挑戦して簡単に好転するものではありません。一つ一つの結果に一喜一憂することなく「夫婦仲乗り越えていこう」という気持ちを失ってしまわないようにすることが大切です。夫婦仲が悪くなると子どもは「自分のせいで」と自らを責めるようになってしまいます。息子さんには「ごめんね、お父さんもあなたのことを一生懸命考えているんだけど、価値観が違うの。大目に見てあげてね。」と、多少苦しくても父親を否定しないように子どもさんに伝えることも大切です。

1 お父さんの思いに共感してあげてください

「あなたの気持ちはわかる。一生懸命になっているのもわかってるから。何とかしないとって考えるのかも父親としては当然のことだと思うわ。」

母親としては自分に対しては共感してくれないお父さんにこのような言葉掛けをするのは腹立たしいと感じることもあると思いますが、そこをあえてこのように伝えるのです。昭和世代の教育観をお持ちの方であるとすれば、否定すればするほど頑固に考え方を換えようとはしないものです。息子さんのためにもアンガーマネジメントをしっかりとしながら、冷静に伝えることが有効です。それができたら次の2へ進んでください。

2 今の関わり方が息子さんにとってマイナスになっていることを伝えてください

息子さんにとって家庭が本当に安心できる場所にならない限り、学校復帰はあり得ないし、それどころか最悪の場合は自己肯定感を失い、命に関わってくるということを「専門家が言っていた」「カウンセラーさんが言っていた」と、第三者の言葉として伝えてください。「あなたが伝えていることは私も本当にその通りだと思うわ。でも今のこの子にとってはそれができなくて苦しいんだと思うの。それを分かってあげるのも必要なんじゃないかって思うわ。」「私は、この子に最悪のことが起こったらと思うと怖くて仕方がないの。」と付け加えても構いません。上記1ができていない状況では反発を招くだけになってしまいます。

3 いつも通りの対応が一番大切だと伝えてください

何か特別なことをしたり、現状を強い指導で変えたりということを考えるのではなく、いつも通りの接し方をすることが大切です。普通に挨拶をしたり、一緒にテレビを見て笑ったり、ご飯の時世間話をしたり、そういう接し方が一番大切であることを伝えてください。これも第三者がそう言っていたというスタンスで伝えた方が良いです。ただしそれですぐ変わることはありません。感情的になることなく、機会を見ながら何度も伝えることが大切です。「あの子も本当はお父さんと一緒に楽しく話したいんだと思う。」「あの子、前みたいにお父さんと一緒にゲームしたいって言ってたわ。」など。お子さんに「お父さんはあなたと一緒にゲームしたいらしいよ。自分では言えないんだって。」などと間を取り持つことも有効かもしれません。

4 第三者の力を借りる提案をしてください

1~3を何度か繰り返しながら、しばらくしたら「一緒にカウンセラーさんの話を聞いてもらえないかしら」とか「講演会があるから一緒にいってくれない」と誘ってみてください。はじめからいきなり誘ってもダメです。なかなか素直に「じゃあ行こうか」とはならないかもしれませんが、あきらめずに働きかけてください。「私たち親が勉強しないと息子は救われない」という思いが伝わるよう伝えると良いです。

5 上記4と並行して「読ませたい本」を薦めてみてください

いくら「この本を読んでよ」と言ってもなかなか行動してくれないことが多いのですが、上記1～3に慣れてくると父親にも少し余裕が生じます。そんな時に「この本とっても良いらしいよ」と書籍をすすめてみてください。「読んでよ」という言葉は使わず「良い本らしいよ」と伝え、本を目に付くところに置いておくだけでオッケーです。始めは目次だけかもしれませんが、気持ちの変化と共に興味関心が湧いてくるものです。「この本は良い本だからあなたも読みなさい!」というスタンスは厳禁です。

お薦めの書籍を2つ紹介しておきます。

『「とりあえずビール。」で不登校を解決する』：蓑田雅之・著

『子育てハッピーアドバイス』：明橋大二・著

上記のような対応をしてもお父さんがきつい言葉で怒ったり、まったく受け入れようとしないうようなケースであれば、カウンセラーさんや行政の相談窓口に頼ってみる方法もあると思います。子どもさんへの暴言や暴力になるようなことがあれば、自治体の福祉関係の相談窓口の方が力になってくださると思います。